

## 当院の高齢血液透析患者の排便状況実態調査

(医)あかね会 中島土谷クリニック

大下亜里紗 森石みさき 小川澄子 真島菜々子  
小田まや 廣本美智子 田口小百合 土谷晋一郎

### 目的

透析患者の約 50%が便秘,約 35%が下痢といわれている。高齢者では,加齢に伴い腸の働きが低下し便が固くなる事や,排便に必要な腹筋や肛門括約筋が弱くなることで便秘傾向にある。今回,高齢血液透析患者の排便状況に対する調査を行ったため報告する。

### 対象と方法

当院外来血液透析患者のうち増子記念病院の「血液透析患者の看護の必要量」表を用い,全患者平均 8.7 点に対し平均 12 点と看護必要量の高い 65 歳以上(平均 79.7±7.9 歳)の高齢者 45 名(男性 27 名,女性 18 名,DM23 名,非 DM22 名)を対象に,2023 年 4 月～5 月の排便状況について調査を行った。下剤を服用している患者(以下便秘群),止瀉薬を服用している患者(以下下痢群),服用していない患者(以下服用無し群)に分類し,薬剤数,排便に対する満足度,残便感,排便回数,便の性状,リン吸着剤・カリウム吸着薬の服用率について評価した。

### 結果

便秘群 31 名(68.9%),下痢群 7 名(15.6%),服用無し群 7 名(15.6%)であった。下剤及び止瀉薬の薬剤数は,便秘群平均 1.5 剤,下痢群平均 2.7 剤であり,満足度は,便秘群 64.5%,下痢群 57.1%,服用無し群 85.7%に満足感がみられた。残便感は,便秘群 38.7%,下痢群 28.6%,服用無し群 0%にみられ,排便回数は,1 回/3 日以上が便秘群 16.1%,下痢群 0%,服用無し群 28.6%であった。便の性状はブリストルスケールで,便秘群 1,2(19.4%),3～5(80.6%),6,7(0%),下痢群 1,2(14.3%),3～5(57.1%),6,7(28.6%),服用無し群 1,2(14.3%),3～5(71.4%),6,7(14.3%)であり,リン吸着剤・カリウム吸着薬の服用率は,便秘群 64.5%,下痢群 71.4%,服用無し群 57.1%であった。

### まとめ

高齢血液透析患者では,約 70%に便秘がみられ満足感が低く残便感も多い。下痢は約 15%と少ないが便の性状で下痢傾向が約 30%みられコントロールが難しい。高齢者の特徴を踏まえ,患者個人に合わせた看護介入をしていく必要がある。